



秋田大学教育文化学部附属小学校 校 報

はとの子だより

No.12 令和8年9月10日(木)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

実りの秋 ～子どもたちの心豊かな成長～

2年生の子どもたちが、心を込めて育ててきた稲が黄金色に輝き、少しずつ頭を垂れてきました。実りの秋の訪れを感じます。

毎朝、子どもたちを出迎える際、学校の玄関前に舞い落ちる葉の多さが気になっていました。落ち葉で散らかった玄関よりも、清々しい空間で一日をスタートしてほしい——そんな思いから、ある朝、一人で竹ぼうきを持ち、静かに落ち葉を掃き始めました。

すると、登校してきた子どもたちがその様子をじっと見つめ、やがて一人、また一人と「僕もやっていい?」「私にもほうき貸して!」と声を掛けてくれたのです。手渡したほうきをしっかりと握り締め、懸命に落ち葉を掃き集める子どもの表情は、とても輝いており、誇らしげでもありました。



「こうしなさい」と言葉で指示するのではなく、大人が行動する背中を見せること、それに応えるように子どもたちが自主的に動き出す瞬間を目の当たりにし、深く胸を打たれました。教育において「大人の背中中で語る」ことの大切さを、子どもの姿から教えてもらいました。



先日、環境委員会の子どもたちと一緒に、花壇にニチニチソウの苗を植えました。子どもたちは、「元気に育ってね」「何色の花が咲くかな」と優しく苗を包み込み、丁寧に土をかぶせていました。

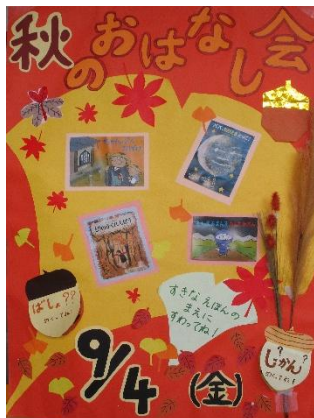
可憐に咲き誇るニチニチソウは、登校してくる子どもたちや学校を訪れる方々の心を優しく和ませてくれています。そして何より、毎日欠かさずお世話を続ける子どもたちの心の中に、「小さな命を慈しむ気持ち」や「誰かのために自ら行動する喜び」という、目に見えない大切な宝物が着実に育まれています。

「環境が人を育て、人が環境をつくる」といわれます。美しい環境に身を置き、自らの手でその環境を整え、命を慈しむ体験こそが、子どもたちの豊かな人間性を育む揺るぎない根っこになります。

これからも教職員一同、自らの姿勢や背中中で子どもたちに情熱を注ぎながら、子どもたちが自ら気付き、心を動かし、生き生きと成長していくことができる温かい環境づくりに努めてまいります。



本や紙芝居の世界に夢中 ～「秋のおはなし会」開催～



9月4日（金）、はとの子ホールで図書ボランティアの皆様による「秋のおはなし会」が開催されました。

ビッグブック（『もりのかくれんぼう』『パパ、お月さまとって！』）や紙芝居（『ちゃんぷくおばけ』『まんまるまんまたんたかたん』）のお話が始めると、はとの子ホールは笑顔と歓声に包まれました。子どもたちにとって、本の世界の楽しさや奥深さを肌で感じる貴重な機会となりました。

日頃の念入りな準備から、当日の心のこもった演じ分けまで、温かい時間をつくり上げてくださった図書ボランティアの皆様、ありがとうございました。



合唱部から教育実習生へ「歌のプレゼント」

8月27日（木）から2週間、一緒に過ごした教育実習生へ、合唱部から「歌のプレゼント」をしました。9月13日（日）にタイハクホール名取で開催される「第93回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール」で演奏する、課題曲『どっきん せみさん』と、自由曲『いまの「いま」』の2曲です。

教育実習生からは、「歌声に心がこもっていました。感動して涙が出てきました。」「もう一度聴いてみたい歌声でした。東北ブロックコンクールも頑張ってください。」などの激励のメッセージがありました。将来教壇に立つであろう教育実習生に、合唱部からの最高のプレゼントとなりました。

合唱部の皆さん、教育実習生からの言葉を胸に、東北ブロックコンクールでは、これまでの練習の成果を出し切ってください。

